

1. 活動状況

団体名	社団法人北海道建築士会 札幌支部 I Z A ネット委員会
対象事業	防災活動や防災施設の整備
事業名	市民と考える安全・安心マップ作成事業
事業目的	危険や災害に対する心の準備と共に地域住民にとっての「まちづくりへの意識の高揚」を図る。
実施期間	平成 15 年 3 月～平成 16 年 2 月
実施活動内容	<p>安全・安心マップ作成に向けて、建築士会と町内会役員からなるマップ作成実行委員会を設け、市民と共に町内会を足で歩き、危険箇所等を調査し、地域住民との意見交換をしながらマップを作成する。</p> <p>今回のような、防災マップを町内単位で作成したことによって、「住民のわかりやすさ」と「まちづくりへの意識の高揚」が発揮でき、地域住民にとって、まちづくりへの参加意識が大きく変わった。</p>
今後の課題 将来計画等	今回の町内会でのマップ作成を経験として、市内地区および他町内会へ向け、事業を展開していきたい。

「市民と考えた安全・安心マップ」  
～札幌市厚別区東地区の事例を通して」

北海道建築士会札幌支部では、いざというときスムーズな情報伝達が行えるように連絡網の確立と災害時の活動の備えとして、平常時から判定士訓練や防災訓練への参加、その他判定士間のコミュニケーションの形成などを目的として3年前に応急危険度判定士によるI Z A ネット委員会を設立し、札幌市を5ブロックに分け、地域密着型の活動を目指していた。

地域の安全を守るためには、自分たちの地域を自分たちで守ろうという連帯感に基づき自発的に行う「自主防災活動」が必要であり、日ごろから、様々な活動を通して、防災意識を高めていくことが大切である。

これにはまず、地域に根ざした町内会単位の活動が必要と考え、I Z A ネット委員会の活動の一つとして、厚別区東地区の町内会と協力して、「安全・安心マップ」の制作に取り組んだものである。

この取り組みは、札幌市厚別区のふれあいまちづくり事業の一環としての活動でもあり、北海道建築士会札幌支部、厚別東地区7町内会の役員、青少年育成委員会のメンバーからなる実行委員会によって具体的な地図作りが行われた。当初、I Z A ネット委員会では、災害時の危険箇所を想定した防災（ハザード）マップづくりを考えていたが、町内会から防災のみではなく防犯、交通および環境なども考慮したマップをつくらうとの意見もあり「安全・安心マップ」になったものである。このマップは住む人すべて（全世帯数4,113戸）が利用できる地図を目指そうというもので、札幌市内でも初めての取り組みであった。

マップ作成の事前準備として、どのようなマップが利用しやすいか、マップの大きさ、写真、文字の大きさなどマップ掲載内容について出来るだけ地域住民の考えを取り入れ、手作りマップにしようと思いがけられたものである。マップ作成上一番重要となったのは、地域住民による自ら歩いて行く町内調査である。調査チェック項目として

防災上は、公園、学校、会館等の災害避難箇所や避難路、病院や消防署等の主要施設、ブロック塀やガラス張りの危険建物及び安全箇所など、防犯上は、日頃危険を感じたり、被害にあっている箇所など、交通上は、スクリーン、交通標識、交通量状況など、そして環境上は、不法投棄や汚れた沼や川などとなった。

今回の町内調査は、7町内会すべてを全員が一度に介して参加することが大変であるため、モデル町内会を定め、調査の共通視点の確認を行い、その後町内会毎に実施した。この町内調査の参加者には、お年寄りや子ども、家庭の主婦なども参加して、それぞれの目線で意見交換を行い町内会単位のマップへ反映させるものとなった。参加者からは、「河川敷の木が生い茂り夜間一人で歩くのが怖い」「地震が起きたときに、ブロック塀が倒れるのでは」等の意見があげられていた。

防災地図（マップ）を町内単位でつくる効果の一つは「住民のわかりやすさ」であり住む住民にとっては慣れ親しんだ町であること。二つ目は「まちづくりへの意識の高揚」であり、自ら歩いて調べた成果が1枚の防災・防犯地図となり隣近所も含め各個へ配布されるため、自らがかわってできたものに対して愛着を持つことである。このように、防災、防犯、交通および環境という視点を通してまちを調査することは、まちの良い点、悪い点を含め、まちづくりへの参加を促す大きな一歩となった。

